平成30年11月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第651号

林業福島

No. 651

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

11 2018

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■炭　　出　　し

県営の会津圃場（喜多方市から穂木を採取）

スギ花粉症の克服に向けた苗づくりに着手！

福島県農林種苗農業協同組合
代表理事組合長　野　尻　榮　一

一九六三年春、齋藤洋三医師によって初めてスギ花粉症患者が発見されてから五五年、花粉症患者は国民の四人に一人といわれるまで急増し、大きな社会問題の一つとなっています。

花粉症に対して山側でできる対策は、飛ぶ花粉を減らすことです。林野庁は、花粉の少ない品種や無花粉品種といった花粉症対策に有効な品種を開発しています。

スギは雌雄同株で一つの個体に雄花と雌花の両方を着けています。花粉を飛ばす雄花は、その年に伸びた葉の先にできます。米粒の形をした雄花一個の中に約四〇万個の花粉が入っています。

花粉症対策スギ苗木とは、①無花粉スギ品種（花粉をまったく生産しないもの）②少花粉スギ品種（平年では花粉を生産せず、生産しても一般的なスギの約一パーセント以下）③低花粉スギ品種（雄花の着花性が相当程度低い）があります。

山に植える苗木はタネから育てた苗木と挿し木により殖やした苗木です。苗木を大量につくることができるのはタネですが、挿し木で殖やしたクローン苗の方が少花粉や無花粉の特性をそのまま継承できる長所があります。

戦後造林された人工林の約五割が主伐期（五一～五五年生以上）を迎え、森林の公益的機能を維持・増進するためには、確実な再造林が重要となっています。

この再造林に使用される苗木は、花粉症対策スギ苗木であり、安定した良質な苗木の供給が求められています。

そこで福島県内の少花粉スギ品種―南会津四号、河沼一号―をコンテナに穂木を直挿しする苗木づくりを平成二九年六月から組合員㈱福島植物園にて試みました。

一二、〇〇〇本を挿し付けし、出荷可能な苗長三〇センチメートル以上になった少花粉スギコンテナ苗は、約三割、四、〇〇〇本と低い結果となりましたが、コンテナに少花粉スギの穂木を直挿しし、山行き苗木を栽培できることが確認できました。

できたスギ少花粉挿し木苗木は、第六九回全国植樹祭サテライト会場（ふくしま県民の森）で植樹されました。

今後も当組合は、スギ花粉症で困っている方々の一助となるスギ苗づくりを少しでも多く進めていきますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ミストハウス内育苗

《もくじ》

とびら
スギ花粉症の克服に向けた苗づくりに着手！
福島県農林種苗農業協同組合
代表理事組合長　野　尻　榮　一…… 1
「夫婦二人三脚の喜びを今ここに」
全国山林苗畑品評会　農林水産大臣賞を受賞して … 2
県政コーナー
森林環境譲与税（仮称）による新たな森林管理システムの運用に向けて …… 3～4
先端林業技術体験フェアの開催…… 5
第30回ふくしま緑の百景歩こう会開催!! … 6
第61回東北六県・新潟県林業経営者協会連絡協議会が福島県で開催…… 7
普及指導員通信…… 8
福島水源林整備事業所だより…… 9
林研だより…… 10
木に触れて豊かな心を育む「木育」⑧… 11
木材市況・ふくしま東西南北…… 12
はなしのひろば・お知らせコーナー…… 13

「夫婦二人三脚の喜びを今ここに」
全国山林苗畑品評会　農林水産大臣賞を受賞して

佐藤孫一

はじめに

第四回全苗連生産者の集いが、去る九月六日に岡山市で開催されました。その席上、全国山林種苗協同組合連合会が主催する平成二九年度全国山林苗畑品評会において、農林水産大臣賞を受賞することができました。

当品評会において受賞できましたことは、身に余る光栄と感激しております。

これまで私を支えてくださった関係各位のご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

経営のあらまし

私の経営は、三本の大きな柱に支えられた、次の経営内容です。

最初に二八㌶の山林経営です。人工林率九三㌫で、そのほとんどが杉林です。幼齢林より百年杉まで齢級構成の平準化が何代にもわたり確立しています。

価値の高い良質材の生産を目標としています。また、伐採跡地には必ず自分で養成した良い苗木を植栽し、一〇〇年の大計をもって、子孫に引き継ぐ経営方針は我が家の代々の哲学であり、これを忠実に踏襲しています。

次に山林用苗木生産について

指定採取源から県営で採取した種子を、県農林種苗農業協同組合より購入し、品種系統の正しい物を全て自家養成しています。また、近年は裸苗よりコンテナ苗に切り替えがせまられ、数年前より一〇〇㌫コンテナ苗に変わり、今では優良で低コスト、また安定した生産体制が確立しています。

優良苗木の生産の基本は、「自然の営みに逆らわず、苗木の生理、性質を良く知ることです。」

ぜんまいの人工栽培について

近年木材価格の低迷、労賃の高騰等の中、保有地の高度利用、短期収入源としてのぜんまいは健康食ブームでもあり、安定した収入源です。

おわりに

顧みますと秀峰磐梯山を仰ぎ見、博士山系よりの清らかな水と豊潤な土壌のこの地に生産の拠点を求めて、五十数年になります。

量より質へと転換をせまられる今、創意と工夫で低コスト化をめざし、優良苗木の生産に努めているところです。

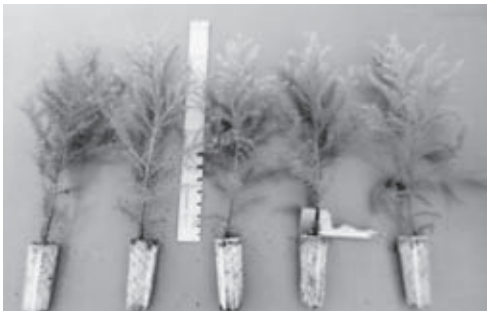
その間には、いろいろな思い出があります。業界全体で生産が過剰となり、大切に育てた苗木を泣きながら焼却したこと。また、その年の生産量が予想を大幅に上回り妻と二人で大喜びをしたこと。次の朝に起き上がれなくなるまで仕事に打ち込んだ日々の姿が、今では懐かしく思い浮かびます。

そしてこの小さな苗木一本一本が風雪に耐えて、根や枝をしっかり張り、悠久の時が流れ、美しい森林を形成し、百年杉になった時、日々を忘れ自己の生命の根源を感じさせる深い感動を私達に与えてくれるでしょう。これが五十数年林業経営に携わってきた私の確信するところです。

これまで培ってきた多くの知識を、次の世代に正しく教え導いていきたいと心している昨今です。私の人生の残りを今までの経験を生かし、地域や社会に恩返しをしたいと思います。

いつまでもこの緑豊かなふるさとであることを願い、私を支援してくださる皆様に感謝申し上げます。

作業風景（散水）


商品検査

みごとな出来映えのコンテナ苗

良く疎密度が調整された１年生

県政コーナー

森林環境譲与税（仮称）による新たな森林管理システムの運用に向けて

福島県農林水産部森林計画課

1　はじめに

平成三〇年六月一日に公布された「森林経営管理法」は、平成三一年四月一日に施行され、「新たな森林管理システム」がスタートします。新たな森林管理システムでは、森林所有者の森林管理に対する責務を明確にするとともに、森林所有者自らが管理できない森林については、市町村が所有者からの委託を受け集約し、自然的条件が悪く、採算ベースに乗らない森林については、市町村自らが森林整備等の管理を行っていくこととしており、この財源として、平成三一年度税制改正において創設されることとなっている「森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）」の一部が充てられます。

今回は、新たな森林管理システム（本誌九月号で解説）と森林環境譲与税（仮称）の関連や、森林環境譲与税（仮称）の使途などについて紹介いたします。

2　森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）の制度設計

森林吸収源対策に係る地方財源の確保として平成三一年度税制改正において創設される「森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）」について、「平成三〇年度税制改正大綱」で示された内容の概要は、次のとおりです。

(1)　森林環境税（仮称）の創設

森林環境税（仮称）は、国内に住所を有する個人に対して、一人一人が等しく負担を分かち合って国民皆で森林を支える仕組として、都市部の住民を含めた国民全体の理解を得て、平成三六年度から課する国税とすること。

①税率

森林環境税（仮称）の税率は、年額一、〇〇〇円とすること。

②賦課徴収

森林環境税（仮称）の賦課徴収は、市町村において、個人住民税均等割りと併せて行うこと。

③国への払い込み

市町村は、森林環境税（仮称）として納付又は納入された額を都道府県を経由して国の交付税及び譲与税配当金特別会計に払い込むこととすること。

(2)　森林環境譲与税（仮称）の創設

森林環境譲与税（仮称）は、森林環境税（仮称）の収入額に相当する額とし、市町村及び都道府県に対して譲与すること。

①譲与基準

森林環境譲与税（仮称）の十分の九に相当する額は、市町村に対し、当該額の十分の五の額を私有林人工林面積で、十分の二の額を林業就業者数で、十分の三の額を人口で按分して譲与する。

森林環境譲与税（仮称）の十分の一に相当する額は、都道府県に対し、市町村と同様の基準で按分し譲与する。

②使途及び公表

市町村は、森林環境譲与税（仮称）を、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用に充てなければならないこととする。

都道府県は、森林環境譲与税（仮称）を、森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用に充てなければならないこととする。

市町村及び都道府県は、森林環境譲与税（仮称）の使途等を公表しなければならないこととする。

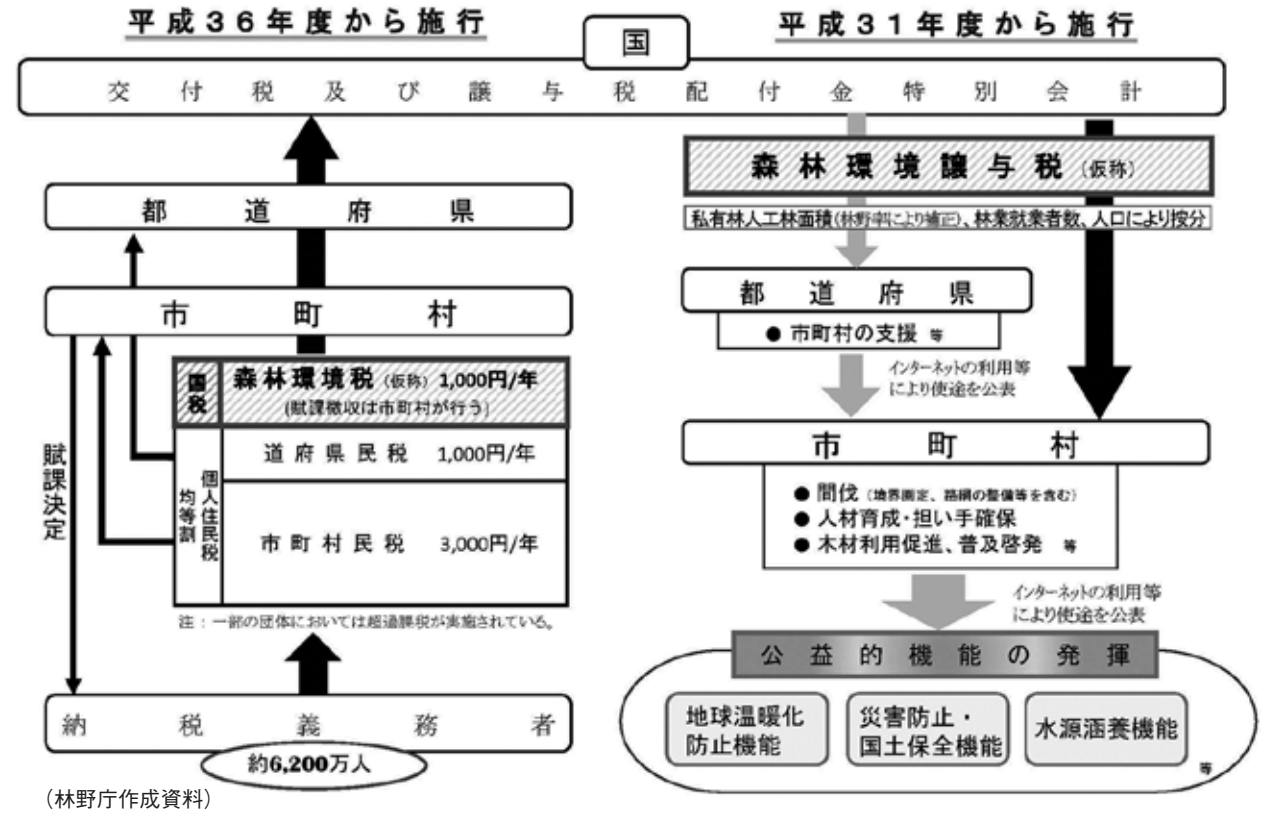
③施行期日

森林環境譲与税（仮称）は、平成三一年度から譲与する。

3　森林環境譲与税（仮称）を活用した森林整備

新設される森林環境譲与税（仮称）には、次の三つの特徴があります。

(1)　使途については、地域の実情に応じて市町村が森林整備及びその



（林野庁作成資料）

促進に関する事業を幅広く弾力的に実施できる。

(2) 毎年度、決まった額が交付される。

(3) 市町村の体制整備の進捗に伴い、譲与額が徐々に増加する（平成四五年度以降は定額の見込み）。

林野庁では「国として具体の使途の詳細な範囲について示すことはなじまない」としており、市町村における使途については、①「間伐等の森林整備」②「人材育成・担い手の確保」③「木材利用の促進」④「普及啓発（森林環境教育等）」の四項目とされ、この範囲内で市町村が自ら事業を創設していくことが基本となります。

県においては、「森林整備等を実施する市町村の支援等に関する費用」とされています。

①の中でも、森林経営管理法に基づく市町村森林経営管理事業は、ア「自然的条件に照らして林業経営に適さない森林（条件不利森林）」やイ「再委託に至るまでの森林」（本誌九月号を参照）の整備が森林環境譲与税（仮称）の対象とされています。アについては、複層林化等の手法により経営管理を行い、イにおいては森林作業道等の整備を優先して実施し、民間事業者への再委託が可能な森林へと誘導していくことが重要です。

市町村森林経営管理事業の実施に当たっては、経営管理がなされていない私有林人工林の集積や所有者の意向調査、境界の確定などの準備が必要です。森林組合等の林業事業体への委託等によりこれらの準備を進めることを優先して検討いただき、森林環境譲与税（仮称）の活用により一層の森林整備が促進されるようお願いいたします。

４　おわりに

平成三一年度の林野庁の一般会計予算の要求総額の対前年度当初比は一一五パーセントであり、来年四月から施行される森林経営管理法に基づく新たな森林管理システムにより林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するなど、森林・林業施策の充実を図るための予算要求となっています。

県としても、森林が本格的な主伐期を迎えるに当たり、森林整備や木材需要拡大を推進してまいりますので、関係の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

先端林業技術体験フェアの開催

福島県農林水産部農林企画課

平成三〇年九月二四日(月)川内村「いわなの郷」体験交流館において、福島イノベーション・コースト構想に基づく林業の成長産業化を推進する取組の一環として、先端技術等に関する講演や展示、実演、体験を内容とした「先端林業技術体験フェア」を開催しました。

当日は林業従事者を始め、県立会津農林高校などの学生や関係者を含め、約二〇〇名の参加をいただきました。

講演では、フォレストメディアワークス㈱の楢崎達也氏より「スマート林業に向けたロードマップを構築してみよう！」と題し、仕事を効率化するためのＩＴツールの導入や、林業と他産業における課題の捉え方の違いなどについて講演いただいた後、㈱ジッタの久保田敦司氏が加わって、実務負担を軽減するＩＴツールなどについて対談していただきました。

釜石地方森林組合の高橋幸男氏からは「地域に根付き魅力を発信していく地域産業としての森林業」と題し、東日本大震災や大規模な山火事から地域と協力して復興したお話しのほか、人材育成や森林整備基金の構築など組合独自の取組、そして、林業だけでなく地域の様々な産業のことを考え、違う視点から創造・チャレンジすることが大事であり、そこに携わる人がアイデアを出すことで林業が成長産業となることなどについて講演をいただきました。

また、いくつかの展示企業から事例紹介をしていただきました。

屋内では、福島イノベーション・コースト構想における農林水産分野の主な取組の紹介のほか、各企業等から、センシング技術等を活用したハーベスタ開発、木材検収システム、森林管理の提案営業支援アプリ、毎木調査３Ｄレーザースキャナー、ハーベスタシミュレータ、キノコ類菌床栽培の耐候型屋内農場、重機後付け型の遠隔操作システム、航空レーザ計測などが展示・紹介されました。

屋外では、重機後付け型の遠隔操作システムの操作デモ、ドローンの航空撮影、チェンソーアート、小型マキ割機とグラップル、プロセッサによる枝払い・玉切りの実演などを実施しました。

参加者からは、「勉強になった。」、「意識を変化させるきっかけになった。」などの意見が聞かれ、出展者からも、「出展企業・関係者との面談などができた。」との声をいただきました。また林業の就業相談も数件ありました。

このフェアをきっかけの一つとして、今後も県の林業成長産業化に取り組んでまいります。

ハーベスタシミュレータの体験

栗田広行氏のチェンソーアート作品

第30回 ふくしま緑の百景歩こう会開催!!

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

「ふくしま緑の百景」は、国際森林年を記念し、ふるさとの森や樹木を見直し、その美しさを守り育てるため、昭和六〇年に福島民報社との共催により、県内の緑の景勝地を一〇〇カ所選定したもので、平成元年から、緑の美しさや大切さを体感していただく、歩こう会を地元市町村と共に毎年開催しています。

開会式（テープカット）

今年のふくしま緑の百景歩こう会は、第三〇回の記念大会に相応しい霊験あらたかなる西会津町の大山祇神社のスギ並木を歩く、最長一二キロメートルのコースを含む三つのコースを設定し、去る十月二〇日に開催しました。

大会当日は、心配された天候にも恵まれ、県内外から参加した約六〇〇人の老若男女が「なじょな願いもききなさる山の神さま」に詣でる自然豊かなコースを秋の一日、十分に満喫しました。

スタート会場では、地元大山さゆり太鼓の演奏により、参加者を送り出し、ゴール会場においては、完歩された方に西会津町産の新米のプレゼントや、疲れた体にうれしい豚汁やアベカワ餅をふるまうなど、地元を挙げて参加者をもてなしました。

また、お楽しみ抽選会や定番の緑化用苗木（ジューンベリー、アジサイ、ヒメクチナシ）の配布も行い、参加者に十分満足いただけた大会となりました。

自然の中でウォーキング

大山祇神社の杉並木

来年は、元号も改まる第三一回大会に相応しい、歩こう会となりますよう取り組みますので、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

もうすぐチェックポイント

大山祇神社御本社

第61回

東北六県・新潟県林業経営者協会連絡協議会が福島県で開催

福島県林業経営者協会

第六一回東北六県・新潟県林業経営者協会連絡協議会が、平成三〇年十月十一日(木)～十二日(金)に関係県の林業経営者協会会員ら三五名が参加し開催されました。協議会では、東日本大震災及び原発事故からの復興・再生に力強く歩んでいる本県の姿を視察していただきましたので、その中で視察する機会が少ないと思われる施設を紹介します。

CLT復興公営住宅「磐崎団地」

「磐崎団地」は、いわき市下湯長谷地区に建設され、平成三〇年三月から入居が開始されたCLTパネル工法による国内で最大の共同住宅(三階建て二棟、五七住区)です。

CLT工法が採用されたのは、団地に木の暖かさが感じられるような景観形成を狙ったことに加え、大型のCLTパネル(最大幅六・八㍍)を使用することで大幅な工期短縮が図られることが主な理由となっています。建設に使用したCLTパネルは二、三〇〇立方㍍で、五〇年～六〇年生のスギ一二、〇〇〇本に相当します。CLT工法は、価格が高いことが一番の難点となっていますが、材料が軽いことや加工しやすいこと、そして何よりも鉄筋コンクリート造に比べ施工日数が十分の一に短縮、現場に要する人夫数も九分の一に圧縮できたとの説明でした。参加者からは、木材利用の可能性に深い関心が寄せられました。

東北電力原町火力発電所

「原町火力発電所」は、南相馬市原町区金沢地区にあり、最大出力二〇〇万㌔㍗(一〇〇万㌔㍗×二基)の東北電力では最大の石炭火力発電所です。東日本大震災では、高さ一八㍍にもおよぶ津波により壊滅的な被害を受けましたが、「不屈と前進」を合言葉に平成二五年四月に運転を再開しました。

原町火力発電所は、地域の森林資源の活用や地域林業の活性化などの観点から、平成二七年四月から木質バイオマスを導入しています。使用する木質バイオマスは、年間約四万㌧(燃焼効率を考慮し石炭重量比の一㌫)で、原料は全て県産(主にいわき市)で建築用材などに使用されない部分(C材)を有効活用しています。また、放射能に対する安全確保については、チップ受入時に全量測定をするほか、空間線量も敷地内に五か所のモニタリングポストを設置し、その数値は翌日南相馬市に報告し住民に公表するなど細やかな対応をしています。参加者は、地域とともに歩む姿に深く感嘆していました。

協議会では、他に、三春町の田村西部工業団地内に設置され平成二八年七月にオープンした福島県環境創造センター交流館(コミュタン福島)、東日本大震災で甚大な被害を受け海岸防災林の中で平成二六年度に完了した「新舞子地区」、平成三〇年六月十日に開催された第六九回全国植樹祭式典会場跡地を視察し、福島の復興を実感されたものと思います。

また、スパリゾートハワイアンズ「ホテルハワイアンズ」で開催した懇親会には、前復興大臣　吉野正芳様、いわき市長(代理副市長　渡辺仁様)及び福島県いわき農林事務所長　家久来克之様からご祝辞をいただき、本県が誇る金賞受賞酒を酌み交わしながら大いに親しく歓談しました。

磐崎団地（ベランダ側）

磐崎団地（玄関側）

原町火力発電所（木材チップの運搬）

原町火力発電所（石炭と木材チップを送るパイプライン）

普及指導員通信

列状間伐の普及に向けた取組について

福島県県北農林事務所
林業普及指導員　松　本　文　章

１　はじめに

最近の林業政策では、「林業の成長産業化の実現と森林の多面的機能の持続的発揮に向けて、間伐、主伐後の再造林等を適切に進めていくためには、森林施業の低コスト化を通じて森林所有者等の負担軽減を図るとともに、資源の造成期から利用期に移行していることを踏まえた森林整備事業の適切な実施により、森林の循環利用を確立していくことが重要」として、間伐の低コスト化のため、「列状間伐」が推進されているところです。

これを受け造林補助事業においても、７齢級以下の若齢林で実施する車両系システムでの初回搬出間伐では、列状間伐の標準単価を用いることとされ、平成31年度から適用されます。

このため、県北普及地区では、県営林においてモデル的に列状間伐を実施し、現地研修会を開催するなど、普及に向けた課題を検証しています。

施業前のヒノキ林分

間伐直後のヒノキ林分

２　県営林における列状間伐の実践

当事務所では、平成29年度に二本松市針道字大沢地内の県行造林施行地において、ふくしま森林再生事業により列状間伐を実施しました。

林分はスギ34年生5.05ha、ヒノキ34年生10.32ha、阿武隈山地の標高610～750ｍに位置します。初回間伐から15年を経過し、今回が２回目の間伐に当たり、路網を整備しながら搬出する上で、２残１伐で本数間伐率33％を見込みましたが、列の配置が難しいため、８ｍ残４ｍ伐と幅で管理する列状間伐を実施しました。

現地研修会の様子

３　現地研修会

今年５月10日に本地区をモデル林として市町村の担当職員等９名の参加を得て、列状間伐の研修会を開催しました。

列状間伐は、選木が容易なこと、伐倒時にかかり木になりにくいため安全性や作業効率が高くなること、集材時残存木への損傷が少ないことなどがメリットです。しかし、プロセッサとフォワーダによる車両系システムにおいて有効なため、機械が入れない地形では導入できないこと、複雑な地形では伐採率に応じた列の設定が困難であることなどから導入には山林を選ぶ必要があります。

また、列状間伐では、目標林型を想定することが肝要であり、残存列では下層間伐を行うなどして経済林へ誘導する必要があることを研修しました。

今後も事例の検証を積み重ね、管内の森林整備へ普及を図りたいと考えています。

参加者による施業検討の様子

福島水源林整備事業所だより

森林・林業での ドローンの活用

国立研究開発法人
森林総合研究所森林整備センター
福島水源林整備事務所

平成三〇年十月十七日～十九日にかけ森林整備センター関東整備局主催の現地検討会が群馬県で開催され、管内の職員及び国有林や群馬県並びに森林組合等の職員が参加し、森林・林業でのドローンの活用について現地検討会を行いました。

離れたところから森林を観測する方法は、人工衛星や航空機、又はラジコン機等を利用する方法がありますが、低コストで比較的簡単に取り扱えるドローンについて、具体的に現地でどの様な調査や作業に活用できるのかを検討しました。

ドローンにカメラを搭載し上空から森林の現況等を把握することや、近づくことが危険で直接目視できない災害現場等の確認、軽量な物資の輸送や薬剤散布等が考えられますが、現地調査等で現地を歩いている時（特に疲れたとき）によく感じるのは、尾根の向こう側はどのようになっているのか「上空から見ることができたらなぁ」という思いです。これを実現できるのが正にドローンです。

森林・林業でのドローンの活用法については、各機関で研究されており、上空からの写真撮影や林況確認のみならず、ＧＰＳ受信機やマルチスペクトルカメラとの組み合わせによる森林資源量調査、下層植生や苗木の抽出判読、広域路網判読等、より高度な調査が可能となります。

ただし、ドローン自体にも限界があり、航空法により原則的に可視領域（目視可能な距離は三〇〇メートルが限界）内の飛行及び高度一五〇メートル以下での飛行に限られることや、降雨や強風の場合は飛行できないこと、また、機種による違いはありますが、一回の飛行時間は最長三〇分程度です（バッテリーが複数必要）。

なお、森林内での操縦については、特に免許等の取得の必要はなく誰でも飛ばすことができますが、特に地形の複雑な山地では、より高度な操縦技術が求められます。

森林整備センターでは、ドローンにより、造林地の現況写真や事業ＰＲ用写真を上空から最適なアングルで撮影することや、シカ柵の破損調査及び災害の緊急調査等に活用する目的でのドローンの導入を検討しており、今後も造林地等での具体的な実用化に向けて、研究部門と連携した調査、研究を進めることとしています。

ドローン飛行状況

ドローン着陸状況

林研だより

地元とともに林研活動

田人林業研究会

福島県林研グループ
連絡協議会

福島県いわき市の田人林業研究会です。

今年行われた第四七回全国林業後継者大会、第六九回全国植樹祭には会員全員参加することができました。また、毎年行われる福島県林業祭に今年も参加しました。

田人林業研究会は、地元のイベント行事への参加、協力などを通して林業の紹介、木材の利用などの活動を続けています。発足してから四三年目を迎えました。先輩方からの世代交代が進もうとしており、若い世代も何人かいます。今年も恒例の行事の時期になりました。十一月三日文化の日に開催されるおふくろの宿祭り、十一月十八日に開催される田人町復興祭、ほっこり祭、十二月のクリスマスツリーの設置、杉丸太による正月飾りなど盛りだくさんです。今年の活動の取り組みについて幾つか紹介します。

⑴ 高校生の木工製作

いわき市の県立遠野高校（松尾親弥校長）では、知識や技能育成のため林業関係講演会、県教委の森林環境学習の一環で地元企業や組合と連携して実践的な学習を実施しています。

担当の先生からの依頼を受け、今回で二度目となりますが、当研究会では「森林の役目と木材」をテーマに、商業研究部の生徒十二人が地元田人町の木材を使ったボールペン作りを行いました。

生徒はボールペンのデザイン画を描き、ヒノキ、サクラ、クリなどの木材を利用したボールペン作りに取り組みました。木材を運び木工旋盤で木材を削り、ボールペンの胴体と金具を専用のプレスで組立、ボールペンを完成させました。生徒は模様や名前を入れたオリジナルのボールペンを手に見入っていました。完成したボールペンは学校の文化祭で展示されるそうです。生徒たちは、「貴重な体験ができ、高校生活の素晴らしい記念になった。」と話していました。栃の木のちじみ模様、もみじのとらめ、黒柿などの高級品もありますが、木の種類によって木目は全部違ってきます。

ボールペン製作

生徒たちの作った物で同じ模様や同じ形の物はありません。一本一本、オリジナルです。

⑵ 地元中学校での森林学習

当研究会では、地元の田人中学校においても、毎年卒業記念品作りとして地元の木材を利用したボールペンの製作を実施しています。

今年度の田人中学校では、田人材で作るテーブル、イスの製作にも取り組んでいます。

木工教室

⑶ 公民館との連携

公民館との連携については、市内の植田、錦、山田公民館が開催する市民講座において、木材の利活用についてお話しました。

高等学校や中学校での活動の様子

木に触れて豊かな心を育む「木育」⑧

木の玉プール（湯川村立ゆがわ幼稚園）

林業福島事務局

○はじめに

会津盆地の中心部に位置する湯川村は、美味しい「会津湯川米」の産地として全国から注目されていますが、本県で唯一森林がない市町村でもあります。「森」に親しむ場がない村では、幼少の頃より「木」に触れ、「木」に親しみを持ち、「木」を身近に感じ、森林や木材に関心が寄せられる様々な取組を行っています。

木の玉プール

○木の玉プール

木製プールは、専用の木製サークルの中に小さな木の玉一万個を入れて、その中で遊ぶ遊具です。村立湯川中学校敷地内にあるポプラの木を伐採するに当たり、これらを材料とした木製玩具をつくり、幼少の頃から木製玩具による遊びを通して森林・木材への興味・意識の醸成が図られるようにと、平成二九年二月に村立ゆがわ幼稚園に設置しました。

園の先生は、「園児達は、木の香りや肌ざわり、重さなど木の感触を楽しんで仲良く元気に遊んでいます。また、親からは、木に親しむ機会が少ないので、何時でも遊べるようにして欲しいとの声が寄せられています。」など、みんなにとても喜ばれていると話していました。

なお、木の玉プールは、何時でも遊べるようにと遊具室に置くことにしていましたが、汗をかく時期に使用すると衛生上懸念されることから、現在使用時期は冬期間（十二月～三月）としています。

ゆがわ幼稚園（トラス工法）

ゆがわ幼稚園（会津産カラマツの椅子・テーブル）

○湯川村立ゆがわ幼稚園園舎

平成二二年四月に開園したゆがわ幼稚園は、大断面集成材を活用したトラス工法で建築されており、屋内空間がとても広くなっています。また、園児らが使用している椅子やテーブルは、子ども達に木材のもつ温かみや潤いを感じ取ってもらいたいと、会津産カラマツの間伐材を使用しています。

広々として室内で、木の香りに包まれながら、快適な環境の中で伸び伸びと学ぶ園児達を微笑ましく感じました。

木工教室

○小・中学校での森林体験学習等

村では、福島県森林環境交付金事業を活用し、小・中学校で木工教室の開催や自然観察の実施など、森林や木製品に親しむ森林体験学習等にも力を入れています。

○おわりに

本県で唯一森林がない村ではありますが、勝常寺の木造薬師如来像をはじめ数々の国宝・重要文化財を有し、木の文化を脈々と伝える湯川村ならではの幼少の頃から木に親しむ取組が行われています。地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、森林の有する多面的機能の発揮が期待されていることから、木育の推進を通じて村の思いが子ども達に根付くことをお祈り申し上げます。

自然散策

木材市況

七月の原木市場への入荷状況は、前月比一六パーセント減（前年比一一パーセント減）の一八、八八四立方メートルとなっている。

販売量は、前月比一六パーセント減（前年比七パーセント減）の一九、一七九立方メートルとなっている。

八月の価格は強含みとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（８月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	9（8～10）	0	（0～0）		9（8～9）	1	9（8～10）	0
		10～14		並		12（11～12）	0	（0～0）		11（11～11）	0	11（11～12）	△1
	中	14～22	3.00	並	スギ	13（11～15）	1	11（11～11）	0	13（12～13）	1	12（11～15）	0
				並	ヒノキ	19（16～22）	0	15（15～15）	0	16（16～16）	0	17（15～22）	0
			6.00	並	スギ	16（15～17）	0	11（10～12）	0	16（16～16）	0	15（10～17）	0
				並	ヒノキ	30（25～35）	0	（0～0）		22（19～24）	1	26（19～35）	1
		20～28	3.65	並	スギ	12（11～12）	1	11（10～12）	0	12（11～13）	0	12（10～13）	1
			4.00	並		12（11～12）	1	12（12～12）	0	12（11～13）	0	12（11～13）	0
			4.00	並	アカマツ	9（7～11）	0	（0～0）		9（9～10）	0	9（7～11）	0
			1.80	並		8（5～10）	0	（0～0）		7（6～8）	0	7（5～10）	0
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		30（29～30）	1	30（29～30）	1
				並	米マツ	（0～0）		34（34～34）	0	29（28～30）	0	31（28～34）	1
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		27（25～28）	0	27（25～28）	0
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）	0	25（25～25）	0
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		26（25～27）	0	26（25～27）	0
パルプ用材				並	マツ	7（7～7）	0	（0～0）		6（5～6）	0	6（5～7）	0
				並	広葉樹	9（9～9）	0	（0～0）		6（6～6）	0	8（6～9）	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～9）	0
	13～14		並	カラマツ	7（7～7）	0	8（7～8）	0
	16以上		並	カラマツ	14（13～14）	0	10（9～11）	0

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（　）内は各地域の価格幅、（　）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

会津桐のこと

会津農林事務所　松﨑　洋

会津地方の特産品と言えば、今は日本酒やソースカツ丼となりそうですが、特用林産物といえばうるしや会津桐が有名です。特に会津桐はタンスや下駄の材料として全国に流通していましたが、生活様式の変化や桐栽培の大変さもありその生産も少なくなっていました。

いま、会津桐の安定した生産のため、会津地域のいろんな業種の関係者で取組が始まっています。

三島町では、地域の伝統であった桐を復活させるべく桐専門員を一名配置し、桐苗を育苗し、管内の生産希望者に配布しています。

また、斎藤桐材店（会津若松市）は、桐畑の造成から桐製品生産まで自社一貫体制を維持しています。また桐材の用途の汎用性を求めて、企業等と連携し新たな商品開発と販路拡大に取り組んでいます。最近では音楽用のヘッドホンのハウジングに会津桐を使用し、再現する音質の精度を高めるという取組をメーカーと行っており、限定発売したところ、鮮明に再現された音が高く評価され、大きな話題となっています。

そのような中、県林業研究センターでは「玉植苗」と「栽培の省力化」という土壌由来の病気を持たず、植栽時の雪囲いや獣害予防が不要な新たな植栽技術を開発しました（林業福島二〇一八年十月号に掲載）。ここでは詳細は述べませんが、この新技術と関係者の強い熱意がうまく絡み合えば、将来、新しい会津桐の産地化や新しい会津桐の用途拡大も夢ではないと思っています。

「新しい会津桐」に注目です！

はなしのひろば

晩秋の景

毎年十一月第三土曜日、須賀川市の牡丹園で「牡丹焚火」が行われる。老木で枯死した木や、あいにく途中で折れてしまった木を焚き上げ供養をする。晩秋の夕闇せまる頃、積み上げられた枯れ枝に火が放たれ、炎が徐々に燃え上がる。その炎はいつか青紫色になり、ほのかに牡丹の香りが立ちあがってくる。牡丹を心から愛した人達の感謝をこめた供養行事だ。大正初期から始められ、昭和五〇年頃には、「牡丹焚火」「牡丹供養」等初冬の季語として定着し、俳句の世界でもその心が表現されるようになった。そして、牡丹の最期のこの香りは、環境省「かおり風景一〇〇選」にも選ばれている。

また、自然の草木の命を供養する「草木塔（そうもくとう）」が全国に一六〇基ほど立てられている。その内の九割は山形県内で確認されており、最も古い塔は、江戸中期（一七八〇年）のもの、一八五九年には耶麻郡熱塩加納村にも一基立てられた。この牡丹や草木を供養する心は「草木国土悉皆成仏」の教えに基づいているもの、と解釈されているが、大事のことは、草木の生命に謙虚に感謝を捧げ、供養するという先人たちの素朴な心を思い起こすことにある。立てられた石碑はどれも自然石そのものであり、その素朴さを表している。教えは、その後についてきたような感がある。

暦では「立冬」だが、周りはまだ晩秋の景であり、そろそろ落ち葉の季節となる。枝に別れを告げて大地に還る落ち葉は、樹木の根元を保護し、やがて腐って肥料となる。それを思うと枯れていくことは、死んでいく姿ではなく、生きる姿なのかも知れない。自然の営みにムダはなく、浪費がないということを一番実感させられるのが今のこの季節である。（都）

表紙の写真

「炭出し」

第15回ふくしま森林・林業写真コンクール最優秀賞（県知事賞）
受賞者　小田島守明さん（郡山市）
撮影場所：鮫川村

編集　福島県
福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行　（福島市中町五番一八号県林業会館内）
発行人　水戸　典明
陽光社印刷株式会社
（定価　一〇八円）

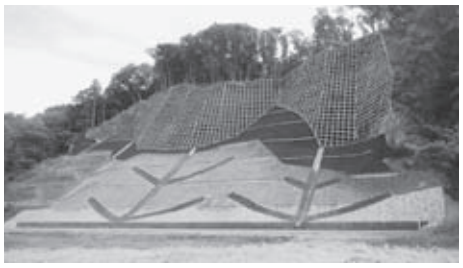
お知らせコーナー

平成30年度治山・林道コンクールの結果について

平成30年10月４日、一般社団法人日本治山治水協会及び日本林道協会が主催する平成30年度治山林道コンクールの受賞者が次のとおり決定されました。

なお、表彰式は、平成30年11月29日（木）東京都「ホテルルポール麹町」で開催されます。

コンクール名	受賞区分	工事名等	受賞者
第34回 民有林治山工事コンクール	農林水産大臣賞	復旧治山2801工事 （上日影地区）	矢祭建設株式会社 菊池　修一
第19回 民有林治山木材使用工事コンクール	一般社団法人 日本治山治水協会長賞	災害関連緊急治山2801工事 （根古屋地区）	県北農林事務所森林林業部 粂川　隼人
第41回 林道維持管理コンクール	林野庁長官賞	入山細茅線	棚倉町長 湯座　一平
第34回 民有林林道工事コンクール	日本林道協会長賞	平成28年度山のみち地域づくり 交付金2801号（新鶴柳津線）	株式会社共立土建 三瓶　貴裕
第19回 民有林林道木材使用工事コンクール	日本林道協会長賞	平成28年度（繰越）森林管理道 整備事業新設工事（大日向線）	塙町まち整備課 佐藤　将成



農林水産大臣賞を受賞した
復旧治山2801工事（上日影地区）

林野庁長官賞を受賞した入山細茅線
（地域住民による除草作業）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ **GP-35B グラップルプロセッサ**

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ
・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新のGP-8コントローラを搭載
・5.7インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
・A,B,C,Dの4コード毎に4種類、合計16種類の測長設定値
・樹種を4種類登録でき、個別に材長調整値の設定が可能

新開発のスタッドローラ(オプション)
・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド(鋲)が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンス

For the future with forest

イワフジ工業株式会社
www.iwafuji.co.jp

（北関東支店） 福島県郡山市八山田5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（支　　店） 札幌・東北・北関東・関東・中部・関西・九州

林業福島十一月号 通巻第六五一号
昭和四十二年二月二十四日第三種郵便物認可
平成三十年十一月一日発行（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 水戸 典明
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価一〇八円
年間購読料一、九〇〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シート

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1-19-10
お問い合わせ　TEL. 03(6740)7777
平日 9:00～17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®
人と共に　緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1